


# 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

論文提出者	高木 雅司		
論文審査委員	(主 査) 朝日大学歯学部教授	澁谷 俊昭	
	(副 査) 朝日大学歯学部教授	土井 豊	
	(副 査) 朝日大学歯学部教授	永原 國央	
<p>論文題目</p> <p style="text-align: center;">インプラント周囲骨欠損への bFGF-<math>\beta</math> TCP 複合体の応用</p>			
<p><u>論文審査の要旨</u></p> <p>歯周病の罹患により抜歯に至った後の機能回復処置としてインプラント治療が選択されるケースが増加している。歯周病罹患部の骨形態は不整であり十分な骨量がなく骨補填材が必要な場合がある。</p> <p>近年、骨補填材としては <math>\beta</math>-リン酸三カルシウム (<math>\beta</math> TCP) の有効性が認められている。<math>\beta</math> TCP は生体には存在しない化学組成であるため生体親和性に劣るが骨伝導能を有し、生体内で吸収されると考えられている。</p> <p>また、塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) を用いた歯周組織再生療法が試されている。臨床治験において人の骨再生での有用性が報告されているが、臨床治験で使用された bFGF は、スキャホールドとしてヒドロキシプロピルセルロース (HPC) が用いられており、ゲル状の bFGF が使用された。しかし、重度の骨欠損の場合、欠損部の保持のためのスキャホールドが必要だと考えられる。さらに、それらのスキャホールドには強度、骨伝導能、生体親和性、生体内吸収性などが求められる。本研究では、インプラント体の周囲に骨欠損を作製し、<math>\beta</math> TCP をスキャホールドとし bFGF を添加した複合体を填入し骨再生の検討を行った。</p> <p>その結果、TCP 顆粒の残存は認められたが、<math>\beta</math> TCP 及び FGF-TCP 複合体で著明な骨の再生が観察された。また、<math>\beta</math> TCP のみと比較すると FGF-TCP 複合体は骨梁間の狭い頬舌的に厚い新生骨が認められた。また、新生骨量及び新生骨高さにおいても FGF-TCP 複合体が最も良好であった。</p> <p>以上の結果から、bFGF と <math>\beta</math> TCP は複合体はインプラント体周囲骨欠損の骨再生に有用であることが示唆される。</p> <p>審査委員は、本論文がインプラント体周囲に対し <math>\beta</math> TCP が bFGF のスキャホールドに有用だと明らかにしたことを高く評価し、博士(歯学)の学位を授与するに値するものと判断した。</p>			